

論点と評価の視点

論点1	—景観・ボリューム— 駿府城三の丸に位置する施設として、景観・風致の観点から見て、適切なボリューム設定か。
評価の視点	お堀の中という非常に貴重な場所に位置するため、特に施設の外観やボリュームなどについて景観に十分配慮しているかといった視点で評価します。
論点2	—交流人口の増加、回遊性の向上、まちなかの活性化— 静岡市民文化会館の再整備を通じて、まちなかの活性化、交流人口の増加、回遊性の向上に寄与することができるか。
評価の視点	大規模集客機能の整備にあわせ、静岡都心の活性化、交流人口の増加、回遊性の向上につなげることができるかといった視点で評価します。
論点3	—「稼げる施設」「選ばれる施設」— 持続可能な施設とするため「稼げる施設」「選ばれる施設」として整備できるか。
評価の視点	魅力的な興行空間と創造空間・設備、効果的な諸室（楽屋、リハーサル室、展示室、会議室）構成、広いバックヤード、物販・飲食ブース、催事グッズの販売ブースなどが設置できるスペース、適切な動線計画などの環境を整えることができるかといった視点で評価します。
論点4	—交通アクセス・駐車場— 自動車アクセスによる周辺道路への影響と駐車場のあり方、歩行者動線として問題がないか。
評価の視点	現状より多くの来訪者が見込まれるため、自動車アクセスによる周辺道路への影響について評価します。また、まちなかの活性化、交流人口増加、回遊性向上の観点から、駐車場のあり方や、大規模催事開催時の会場への歩行者動線や来場者が滞留するスペース、避難動線についても評価します。
論点5	—事業費・民間事業者の参画— 事業費（整備費・ランニングコスト）は適当か。民設民営を含む民間事業者の参画が見込めるのか。
評価の視点	適切な規模の整備費、ランニングコストであるかといった視点から評価します。また、民間事業者のノウハウを最大限に発揮できる事業内容の設定と民設民営も含む公民連携手法の観点からも評価します。
論点6	—休館期間— 再整備に伴う休館期間は適当か。
評価の視点	市民の文化活動や鑑賞の機会に大きな影響を与えるため、再整備に伴う休館期間について評価します。
論点7	—既存施設の機能維持— 静岡都心に位置する稼働率の高い既存施設の機能を同位置で維持することができるか。
評価の視点	既存施設は、ミュージカルのロングラン公演（大ホール）、伝統芸能である歌舞伎公演（中ホール）、美術作品展示（展示室）などにより、静岡市の芸術文化の拠点として、計画地において40年に渡り親しまれ、高い稼働率を誇っています。再整備にあたり、その機能を維持することができるかといった視点で評価します。
論点8	—日常的な利用— 周辺施設との相乗効果を発揮し、日常的に市民に利用されるような状況が整えられるか。
評価の視点	計画地内には、劇場の他、中央体育館、中央プール、ラン&リフレッシュステーションなどがあり、文化とスポーツが共存しています。周辺では駿府城公園のほか、歴史文化施設の整備も進んでいます。これらの機能と連携し、相乗効果を発揮することで、平日・休日、昼・夜を問わず、いつも誰かに楽しく使われる状況を実現できるか評価します。